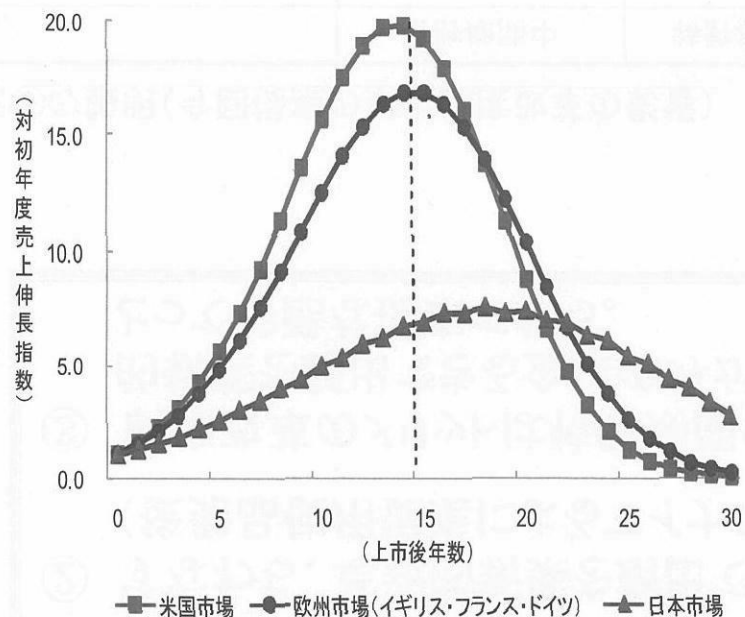


今回提案の薬価制度改革実現後の医療用医薬品市場

従来の日本市場における売上パターンは、欧米市場に比し特許期間中の成長が緩やかである一方で、長期にわたり売上を維持している点が特徴であったが、今後は特許期間中の成長拡大と特許期間満了後の後発品への急速な代替とのバランスにより、結果として成長パターンは欧米市場型に近づく。

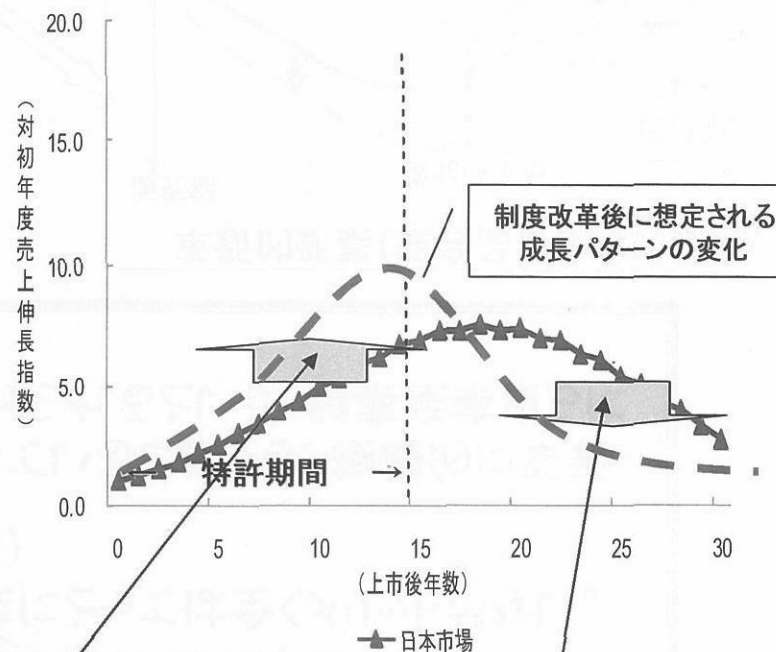
従来の売上パターン〔欧米市場との比較〕

(後発品使用促進前)



制度改革後の売上パターンの変化

(後発品使用促進+今回提案の実現)



特許期間中の成長拡大

後発品への急速な代替

注1: 米国、欧州3か国は2006年売上上位70品目、日本は2005年および2006年(薬価改定の影響を考慮)を対象とし、各売上上位70品目の上市後年数と対前年伸長率(現地通貨ベース)との回帰式から成長曲線を推定
 注2: 対初年度売上伸長指数は、上市年(上市後0年)の売上を1としたときの累積伸び率
 注3: 欧州はイギリス・フランス・ドイツ各上位70品目(計210品目)から推定
 出所: 日米欧の推定成長曲線は、IMS World Review、IMS Lifecycle、Pharmaprojectsをもとに政策研ニュースNO.25「国内医薬品市場の将来予測と新薬創出への影響」P.3図7を改訂(政策研)(転写・複製不可)。